

2024.7.6 第47回公開セミナー(前回は2019.9.28 でした)

塩竈市立病院の果たすべき役割

—地域医療を守る—



塩竈市立病院事業管理者
福原 賢治

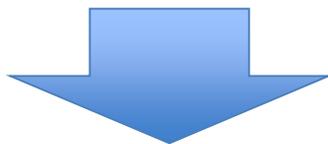
医療に対する国の認識

近年、医療が急速に高度化・細分化したため、一つの病院があらゆる医療を提供することが困難になった。

様々な病院・クリニック・在宅医療機関・介護施設等が連携して地域医療を支えていく体制づくりが求められている。

高額な薬剤、高価な医療機器の普及により医療費が高騰し、保険診療が危機的な状況にある。

特に増え続ける高齢者の医療費を抑制したい。

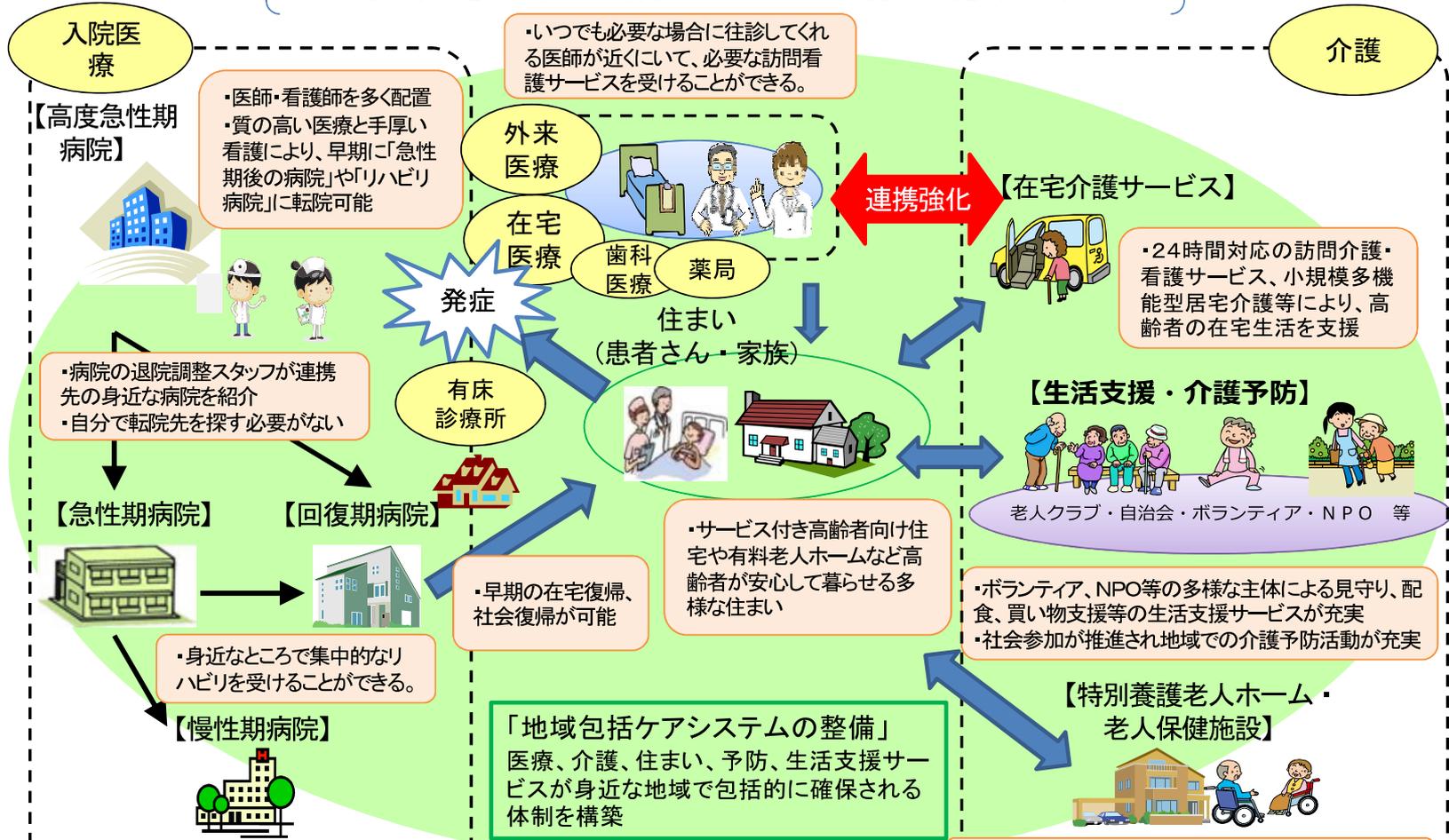


団塊の世代がすべて後期高齢者に移行する2025年に向けて

地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムとは

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員その他の専門職(※)の積極的な関与のもと、患者・利用者の視点に立って、サービス提供体制を構築する。



※保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、言語聴覚士、歯科衛生士、歯科技工士、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師、柔道整復師、栄養士、社会福祉士、介護福祉士等

・地域の拠点として在宅介護サービス等も積極的に展開

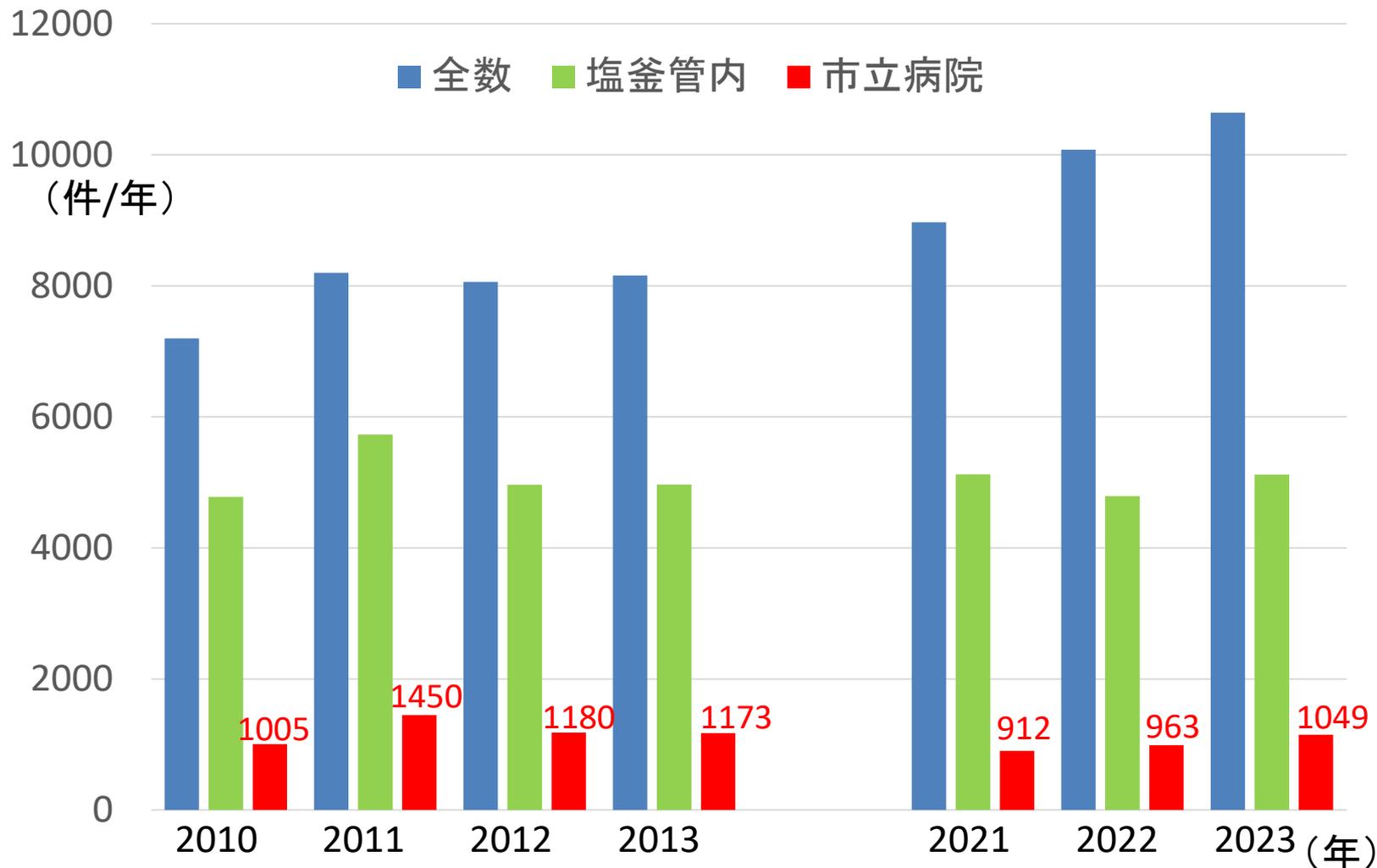
出典)厚生労働省社会保障審議会介護給付費分科会第100回(平成26年4月28日)資料「介護保険制度を取り巻く状況」

http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000044899.pdf

市立病院が果たすべき役割

1. 救急医療
2. 消化器系を中心とする急性期医療
3. 高齢者に対する医療
4. 予防医療（人間ドック、健診・検診、ワクチン）
5. 政策的医療（不採算医療）

二市三町の救急受入状況



二市三町の病院の救急受け入れは5000件/年程度が限界。
市立病院は、そのうち1000件前後を受け入れている。

2. 消化器疾患

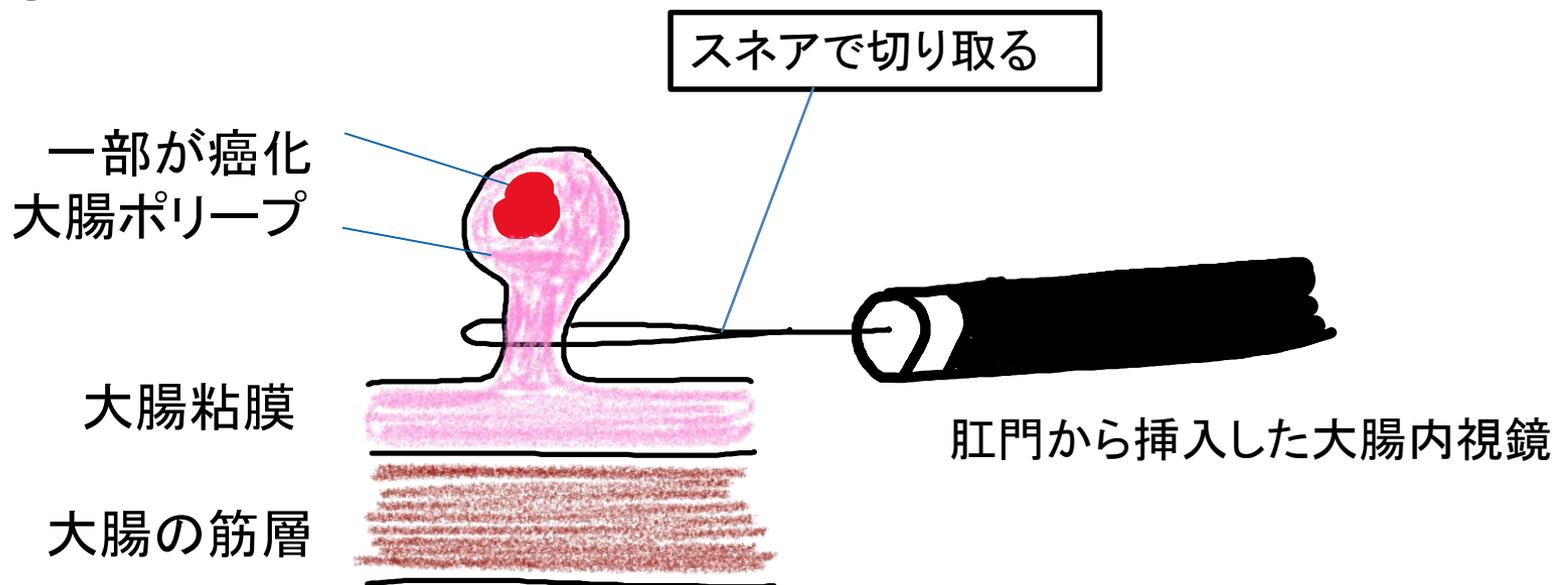
- 内視鏡検査 3000件/年
 - 胃カメラ 2000件/年
 - 大腸カメラ 1000件/年
- 内視鏡的治療 240件/年
 - 胃・大腸ポリープ切除
 - 胆管結石除去、胆管ステント
- 外科手術 120件/年
 - 大腸がん切除
 - 胆石症手術
 - 虫垂炎手術
 - ヘルニア手術などを主に腹腔鏡下で低侵襲に

2. 消化器疾患

大腸ポリープ・早期大腸がんの内視鏡治療

(消化器内科の医師が担当)

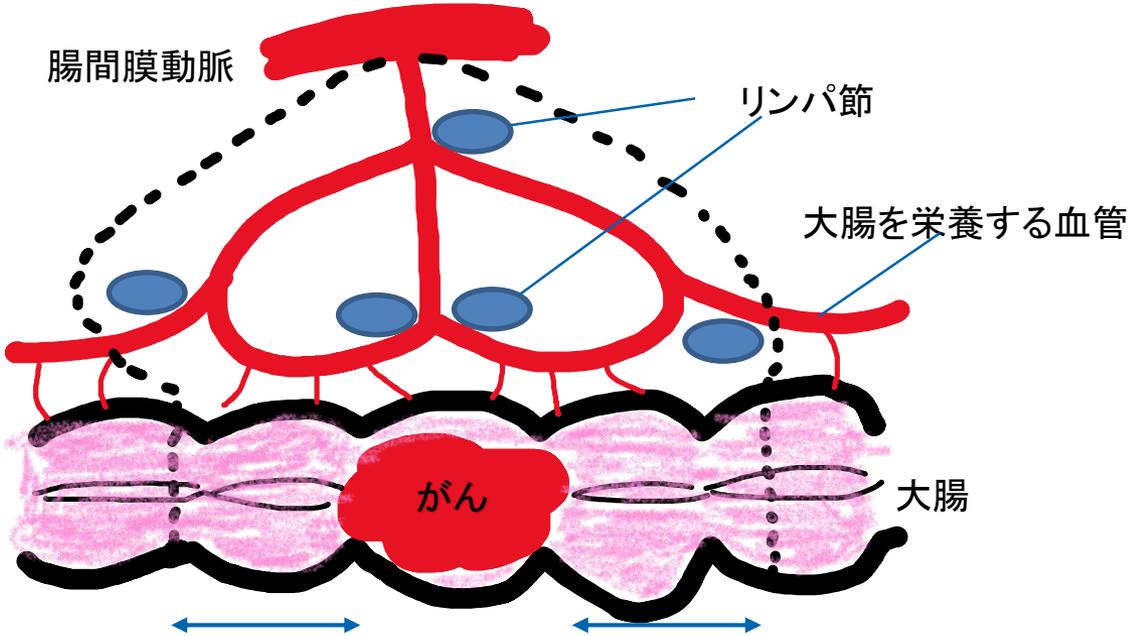
① ポリペクトミー



② 内視鏡的粘膜切除術

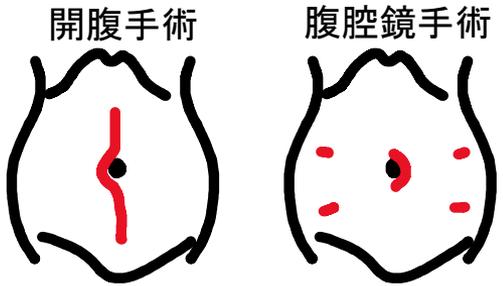
③ 内視鏡的粘膜下層剥離術

進行大腸がんの外科治療



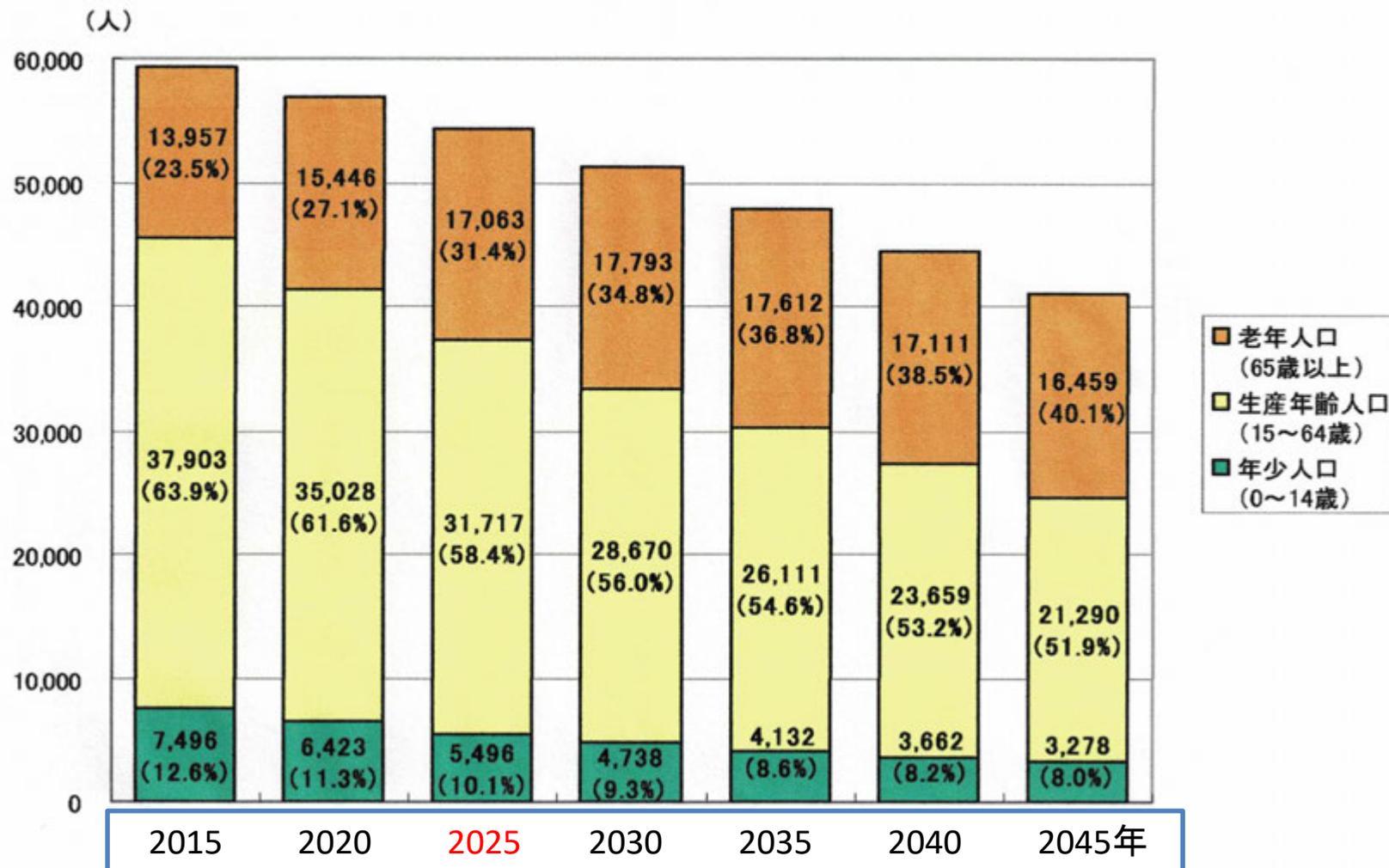
がんから10cm離れたところで大腸を切離して両側の大腸同士をつなぐ
周囲のリンパ節も一緒に切除する

腹腔鏡手術は、
傷が小さく、
痛みが軽く、
入院期間も短くて済む



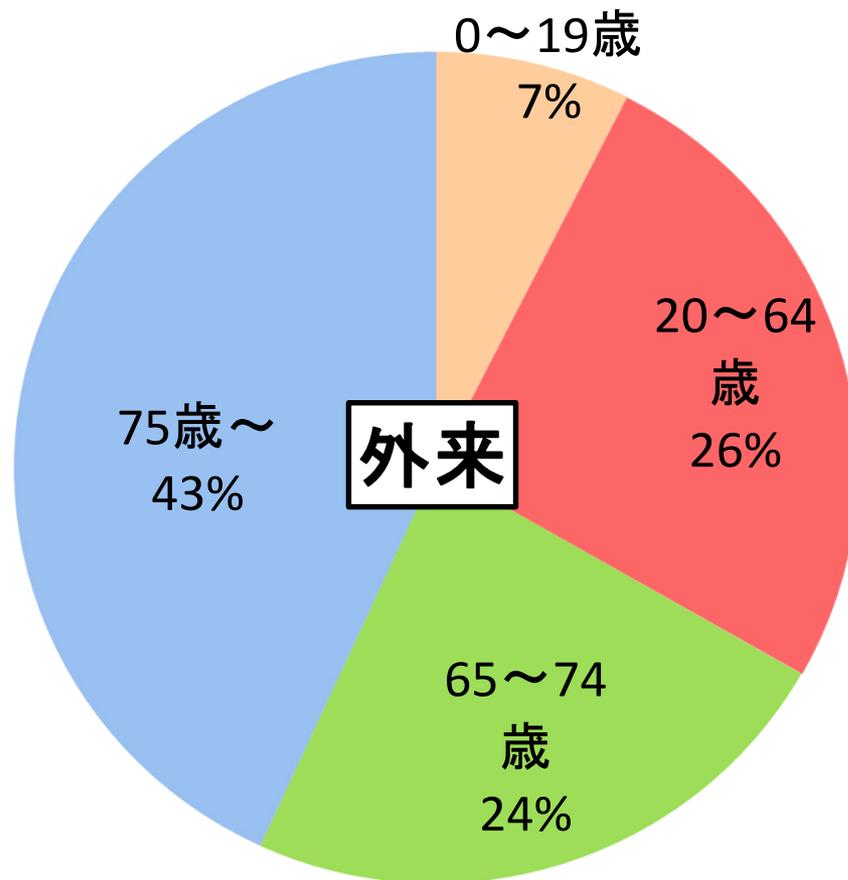
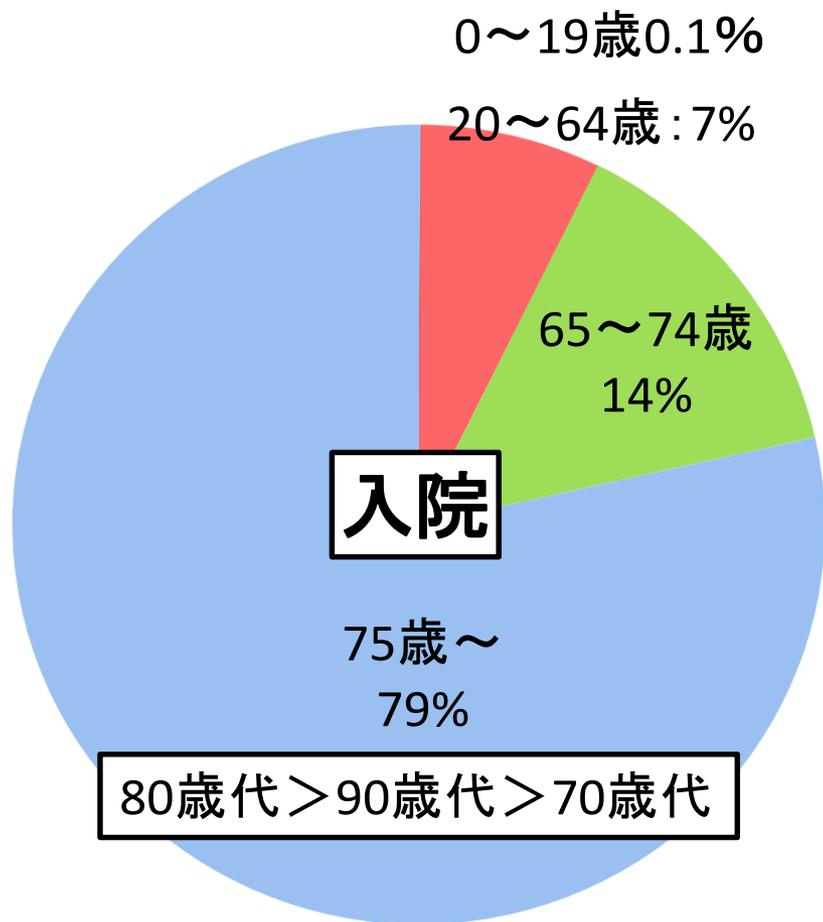
3.高齢者医療への備え

塩竈市の将来人口



高齢者人口は減少しないので、医療の必要性は今後も続く

市立病院を利用している患者の年齢層（令和4年）



入院・外来ともに65歳以上の高齢者が圧倒的に多い

3.高齢者の入院治療

二市三町の病院の病床数とその機能

医療機能	必要病床数	病床機能報告(令和4年7月時点)							差引	
	令和7年(2025年)(a)	塩竈市立病院	坂総合病院	赤石病院	仙塩総合病院	利府済済会病院	仙塩利府病院	松島病院	合計(b)	(b)-(a)
高度急性期	191.4	0	6	0	0	0	0	0	6	△ 185.4
急性期	561.2	71	305	51	56	50	108	54	695	133.8
回復期	493.2	90	46	0	42	0	0	0	178	△ 315.2
慢性期	315.0	0	0	28	45	50	0	0	123	△ 192.0
合計	1,560.8	161	357	79	143	100	108	54	1,002	△ 558.8

必ずしも十分な病床があるとは言えない

高度急性期・急性期の入院期間は10～14日

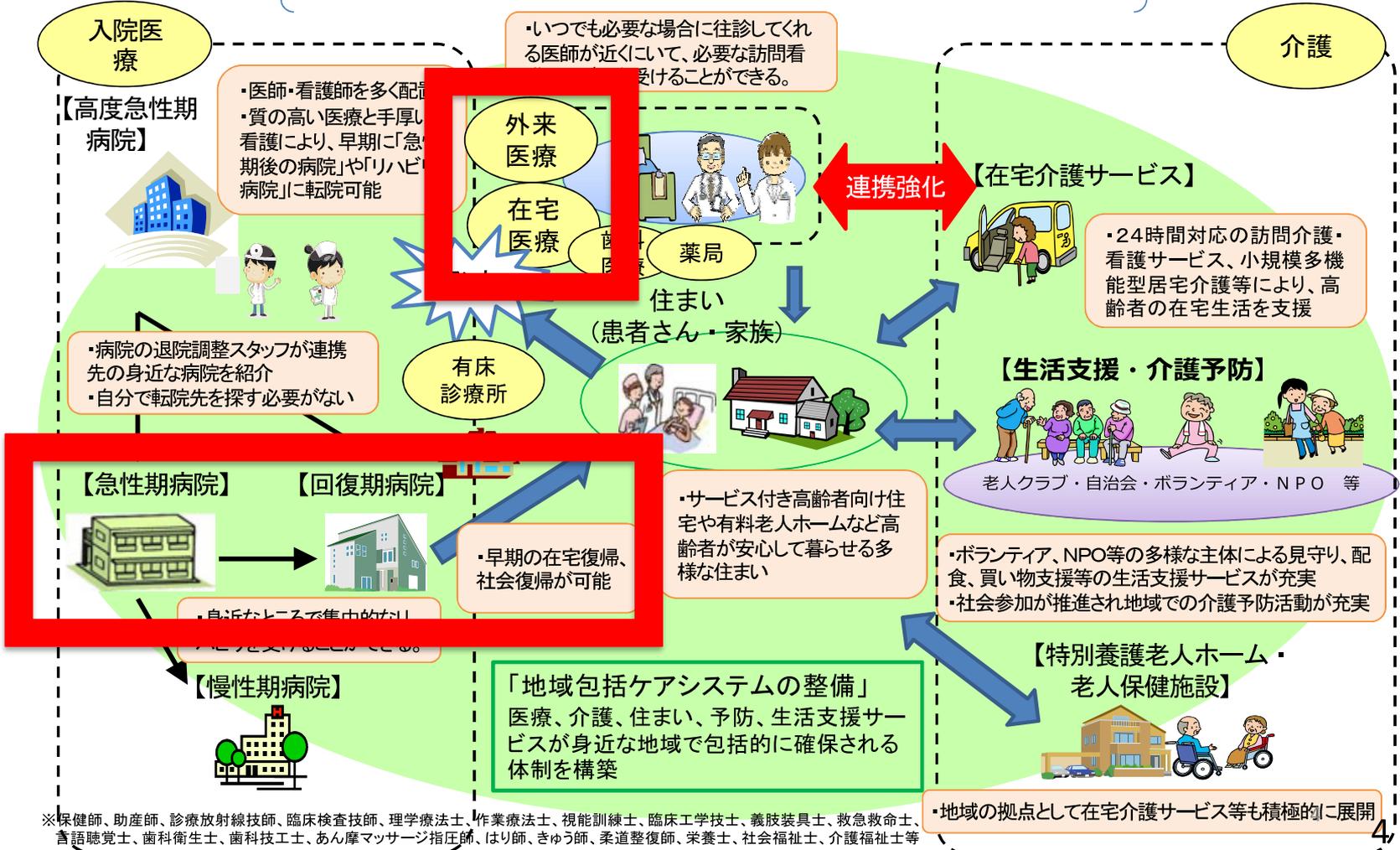
高齢者には長期入院に対応可能な病床が必要

市立病院の回復期病床では60日間の入院が可能

退院後は在宅医療の導入も検討

3. 高齢者に対して市立病院は急性期・回復期・在宅医療を提供します

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員その他の専門職(*)の積極的な関与のもと、患者・利用者の視点に立って、サービス提供体制を構築する。



*保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、言語聴覚士、歯科衛生士、歯科技工士、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師、栄養士、社会福祉士、介護福祉士等

介護との連携もしっかりと行います

病気を未然に防ぐ 早期発見 / 早期治療を行う

人間ドック・健康診断	6700件/年
乳がん検診	2100件/年
脳ドック	200件/年
予防接種	4200件/年

最新のCT



最新のMRI



左右方向撮影時、撮影台横に腕を預けることでポジショニングが良好になります

上下方向撮影では中央、左右方向撮影では上部へ可動できます。照射野は圧迫板に連動します。

【小乳房シフト圧迫板】

撮影台の角が先細り形状のため腋窩の痛みを軽減することが可能です

手が抜きやすい奥行き短い圧迫板も使用しています。

痛みの少ない最新のマンモグラフィ



高性能の骨密度検査機器

費用が収益を上回る医療を**不採算医療**という

1. 新型コロナなどの感染症に対する備え
2. 大規模災害への備え
3. 地域に必要不可欠な医療

① 救急医療 1000件/年

② 在宅医療

訪問診療 1560件/年

訪問看護 2150件/年

訪問リハビリ 2200件/年

③ 小児医療

これらの医療を維持するために、国や市から繰入(補助金)がある

新型コロナウイルス

2020.01.15: 国内初の感染確認

2020.02.01: 指定感染症2類相当

検査、治療、ワクチン接種等が国費での対応

2023.05.08: 感染症5類に移行

インフルエンザ並みの対応に

2024.04.01: 通常診療に

市立病院ではコロナ検査 16,000件

陽性者 3,000人

重症患者は感染症指定医療機関へ紹介

中等症患者(酸素が必要)に対して入院治療

軽症患者に対して治療薬の処方

(令和6年7月1日)感染症対応病床を3床届出

震災への対応



2011.03.11: 東日本大震災

直前に病棟の耐震工事が終了し倒壊を免れた
医療機能が維持され、**来院した患者全員に対応**

2011年、2012年の病床利用率は100%

2016.04.14: 熊本地震

2018.09.06: 北海道胆振東部地震

2022.03.16: 福島県沖地震

2024.01.01: 能登半島地震



震災等に対応可能な病床を確保しておく必要がある

地域医療を維持するための繰入金 (基準内・基準外)

救急医療など、国が決めた
項目に該当する医療

基準内繰入:4億円

国

2億円

市

在宅医療・リハビリ、小児外来医療

基準外繰入:1億円

市が2億円を追加

1億円

病院

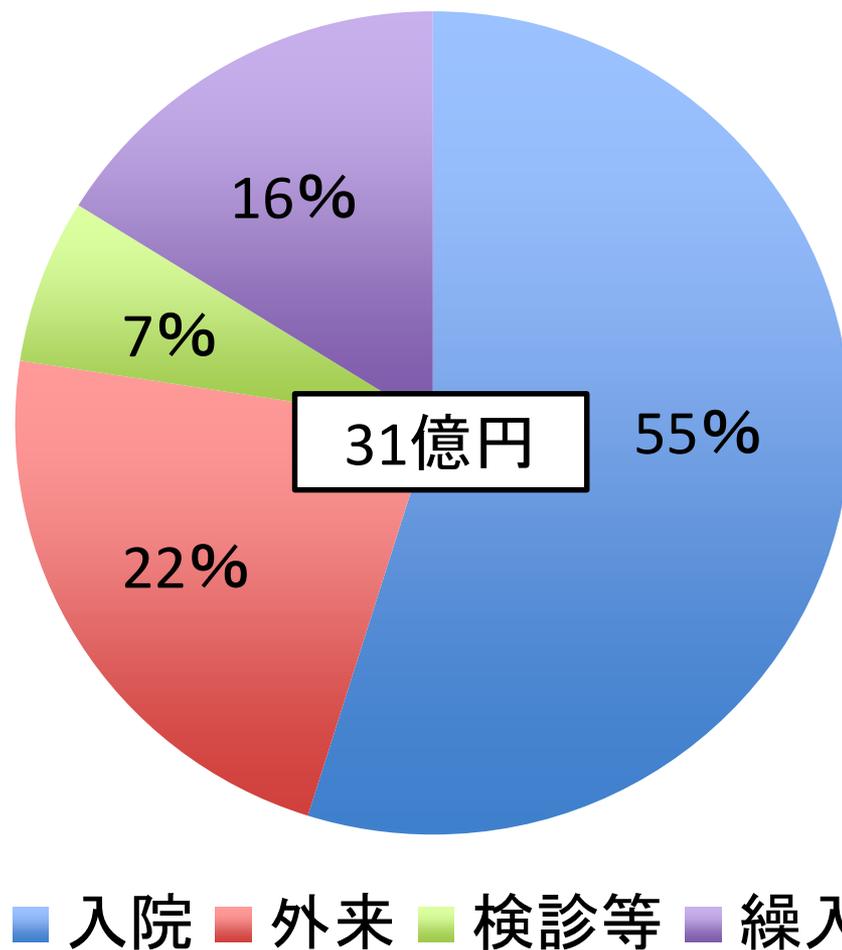
合計5億円の繰入は
国が2億円、市が3億円を負担

市の負担3億円は市の年間予算の1.1%

(市民一人当たり6000円/年)

地域医療を維持するために必要不可欠な費用

市立病院の収入の内訳



収入の55%は入院、22%は外来、7%が検診、16%が繰入金
市立病院は経営改善により、繰入金を減額して黒字を5年間維持

塩竈市立病院の果たすべき役割

- ① 救急疾患、消化器疾患の診断や治療など、令和の時代にふさわしい**安全で良質な医療**を継続して提供する
- ② 高齢者に対して**治し支える医療**を行う
- ③ 予防医療を提供し**健康のお手伝い**をする
- ④ 不採算であっても**地域に必要不可欠な医療**(救急・在宅・小児医療、リハビリ等)**から逃げない**

- 塩竈市立病院は、より多くの市民の皆様に信頼され、利用していただく病院を目指します
- いっぽうで病院の老朽化は深刻であり、引き続き皆様の応援をお願いしたい

ご清聴ありがとうございました

